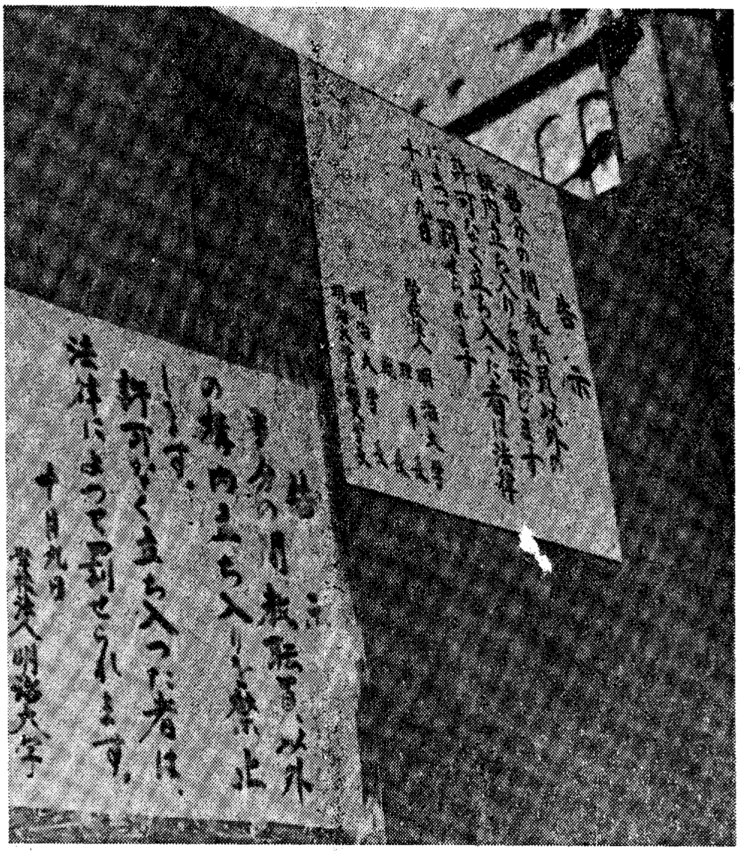
当局、全学をロックアウト

9日 機動隊導入さる
大学院で学生七人が抵抗

六月二十二日の全学バリケードスト突入以来一〇〇日以上にわたり封鎖が続く本学は、九日午前六時三十分中川富弥学長が警視庁に機動隊の出動を要請、直ちに駿河台本校、和泉校舎の封鎖を解除した。駿河台本校では大学院に立篭る学生七人が火災ビン・投石で抵抗したが、三十分後に全員が逮捕された。大学当局はこの後全学をロックアウトすると共に、学生の立入りを禁止し、当分の間休校にすることを告示した。なお、生田校舎も神奈川県警の出動により封鎖解除・ロックアウトを行なった。一方、全共闘系学生は松陰寮などに分散し当日昼には二〇〇人が駿河台本校前をロックアウト粉砕を叫んでデモ行進をした。各派とも今回の当局の処置に強く反発し、今後とも徹底抗戦をする構えをみせている。



バリケード封鎖解除後、各校舎入口に掲げられた「休校」の告示。学生の校内立入は禁止された。

機動隊の指揮者が「大学側から退去命令が出ています」と呼びかけてから約三十分後〝明大トリデ〟はあっけなく解除された—。

大学当局は対策本部会議で機動隊導入・ロックアウトを計り、八日夜水野東太郎法人理事長・中川富弥学長・立石芳枝短大学長（駿河台本校のみ）名で機動隊導入を所轄の警察署に要請した。

九日早朝、大学院・各校舎に泊り込んでいた数十人の学生は七人の決死隊を残し午前五時三十分までに外に出た。六時すぎ、機動隊の装甲車が記念館の前に姿を見せると大学院前に居た学生のうち十五・六人がデモを始めた。

六時三十分、駿河台下・日大病院側から指揮車、放水車が揃い、またたく間に大学院を包囲した。

その時、旧学館前に陣取る機動隊目がけて屋上の金網の裂け目から火炎ビンが飛び、路上に砕けて真赤な火を吹いた。「裁判所の発する令状により大学院を捜索する。妨害する者は直ちに逮捕する」—。

緊迫した空気の中を高圧放水車が前進した。あちこちの窓から一斉に火炎ビンが飛ぶ。ガス弾が射たれ、放水車が路上の炎を消して回る。クルクル回転しながら落下してきたビンが放水車の屋根に命中した。砕けて液体が飛び散り、悲痛な声があがった。「硫酸だ。水、水で洗え。高圧放水！」。放水車の横腹から強い勢いで水が飛びだし、水しぶきの中に姿がかすむ。

一方、七号館から突入した第二機動隊はジュラルミンのハシゴなどを使って屋上へ登った。「徹底抗戦」の六人はオルゴール塔に上がり、そこでスクラムを組んでインターを斉唱、最後のデモ行進を行なった。やがて屋上に青い服の機動隊員の姿が増え、六号館の塔からガス銃の照準を大学院の塔に定めて構える。そのなかを一人が塔に登りつめた。学生六人は抵抗せず、全員が両手をあげて待った三十分の幕切れ—。

最強固といわれた六号館バリケードの、その崩されたあい間から、公務執行妨害、凶器準備集合罪、不退去現行犯で逮捕された六人の学生が機動隊に連れ出された。無表情なその顔。下を向いたノンヘルの学生に公安刑事が「上を向け上を」と乱暴に頭をつかんだ。顔が仰向けになった瞬間をカメラマンのフラッシュがとらえた。

一方、機動隊員と記念館に入った中川学長はハンドマイクで学生の学内退去を命じた。「学内にいる学生は直ちに学外へ出なさい」—。

出勤時間をむかえ本学前通りは往来が激しくなった。午後八時、各校舎のバリケードはすべて撤去され、ロックアウト用のベニヤ板や材木が到着し、業者が厚いベニヤ板を校舎の回りに手際よく打ちつける。駿河台本校の各校舎はみるみるうちにベニヤの明大トリデに変った。

本館では体育会学生の退去した後、オーケストラクラブ員の楽器を運び出す姿も見られた。

ロックアウトのヘイの中ではかけつけた教職員が器材の整理にのり出したが、大学院のメチャメチャになった書物や資料に、ただあ然として立ったままの教授の姿が印象的に目に入った。

ロックアウト粉砕でデモ

この大学当局のロックアウトに抗議する全共闘系の学生は九日、立教大・慶応大などに泊り込んでいた学生も含め、約二〇〇人が神田淡路町公園に午後十時ごろ集合したが、待機していた機動隊に規制され、同地下鉄駅構内に結集した。その後小川町校舎前に集まり、本館前をデモ行進したが直ちに機動隊のサンドイッチ規制をうけて「ロックアウト粉砕」を叫びながら医科歯科大わきの聖橋公園まで行進、そこで集会を開き、昼すぎに解散した。

なお、学生は十二日に代表者会議（和泉）、十三日活動者会議（山楽ホテル）、十四日に全共闘政治集会（生田）を開いて今後の方針を決める予定である。

学生の出入は一切禁止

中川学長は午前九時小川町校舎で記者会見を行ない①九・三〇にみられるように外人部隊の砦と化し、このまま放置すれば一〇・二一など拠点となって大学周辺の市民生活に多大な損害を与える②学内、特に大学院の荒廃がひどく、研究資料がなくなるばかり③九・四集会のように話し合いの道が閉された—との理由から機動隊の導入要請を決意したとのべ、さらに学内が正常に戻れば改革問題について再び学生と話合いを行なうと語った。

なお、この日の捜査で角材・火炎ビンなど八三点が凶器として押収された。また和泉・生田校舎もそれぞれ五〇〇人の機動隊によってバリケードの封鎖が解除され直ちにロックアウトされた。

この全学ロックアウトは当分の間続き、その間大学は休校になる。駿河台校舎はその修理・復旧に二週間以上かかることから、今月下旬までは解かれないものとみられている。当局は早急に対策本部会・教務部委員会を開き、今後の授業再開のスケジュールを検討する予定だが、今のところ未定である。

また、この間各校舎には教職員が検門・宿直にあたり、学生の出入は一切禁止されている。